

GHE030-09

会場: 202

時間: 5月23日11:30-11:45

都城科学哲学とラウダンの網状モデル

Miyashiro's Philosophy of Science and Laudan's Reticulated Model

青木 滋之^{1*}, 石井 克哉²

Shigeyuki Aoki^{1*}, Katsuya Ishii²

¹会津大学, ²名古屋大学

¹Aizu University, ²Nagoya University

都城秋穂(1920-2008)は、『科学革命とは何か(1998)』の中で、クーン(1962)やラカトシュ(1978)の科学哲学を「物理学を範としたもので、生物学や地質学には当てはまりづらい」と批判しつつ、さらにラウダンの「研究伝統説(1977)」については、「あまり役に立たないように思われるから、紹介しない(p.194.)」とバッサリ切り捨てている。しかし、ラウダンはその後、規範的自然主義という立場を練り上げてきており、近年訳書が出された『科学と価値(1984)』で「科学の網状モデル」と彼が呼ぶものを展開している。この網状モデルは、都城の挙げる第一種、第二種の複合構造理論の差異をうまく取り込める余地があるのではないだろうか。本発表では、都城が挙げる複数の科学的变化のパターンを、網状モデルから説明することを試みる。そうすることで、都城が扱うことのなかったクーン、ラカトシュ以降の科学哲学の展開と、都城科学哲学とを架橋し、後者の哲学的洞察を現代科学哲学へとフィードバックすることを試みたい。

キーワード: 科学哲学, 科学史, 地球科学, 地質学

Keywords: philosophy of science, history of science, earth science, geology